

多忙化解消検討ワーキング・グループリーダー謝辞

今般、「『教職員の負担軽減に向けて』の提言」を取りまとめましたので、ワーキング・グループリーダーとして一言述べさせていただきます。

昨年7月に多忙化解消検討ワーキング・グループを設置し、8回にわたって検討討議を重ねてきました。各委員には業務の合間を縫って検討会に出席し、熱心に研究討議していただき、関係資料の調製やとりまとめなど多くの負担をおかけしました。また、委員以外の方にも参加していただき、提言のとりまとめに協力していただきました。あらためて本提言に携わった皆様方に感謝を申し上げます。

私をはじめ各委員等は、現場の教職員が心身ともに健康で、児童生徒と向き合う時間をこれまで以上に確保し、意欲的に働きやすい職場をつくり出していけるよう、また、家庭や地域の方にも教職員が多忙のため子どもたちと十分に向き合うことができないと指摘されている状況を理解していただき、学校・教職員と一体となって、本県の教育目標実現に向け互いに協力していくことができるよう強い思いで取り組んできたものです。

本提言を、教職員の皆さん一人一人が目を通したうえで、校長先生をはじめ職員皆さんで話し合う場をつくって欲しいと考えています。さらには、家庭や地域に提言の趣旨なども含め、理解と協力を求めているとしたいと思います。校長先生は、これらのことに是非取り組んでいただくようお願いします。

また、市町村・県教育委員会、関係機関は提言内容等を参考に、よりよい仕組みづくりを進め、絶えず現場を支えていかなければなりません。

教職員の多忙化の改善に向けた取組みは、現場からの取組み、特に教職員一人一人の向上意識が大事と考えます。加えて、管理者層の率先した取組みと教職員を支援していく具体の行動が必要です。

いずれにせよ、現場だけでは解決できないものは市町村教育委員会及び県教育委員会で検討・改善していく努力が大事です。

全ては本県の将来を担う子どもたちを育む最も重要な基盤である学校教育の中で、教職員をはじめ多くの関係者のたゆまぬ努力を願うものであり、本提言がその一助となることを期待するものです。子どもたちのために互いに協力していきましょう。

平成 21 年 3 月 30 日

多忙化解消検討ワーキング・グループ リーダー
岩手県教育委員会事務局教育企画室
企画担当課長 佐藤 博